

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400224
法人名	(有)介護支援サービスしのもと
事業所名	グループホーム・シオンの家
所在地	上浮穴郡久万高原町久万1394-3
自己評価作成日	平成24年6月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

環境的には四季折々の風景が庭から見える高台に位置し、広い庭には縁側、花壇、菜園もあり、利用者や御家族からとても「家庭的」と喜ばれている。一人1人のレベルに応じた普通の生活が送れることを目標にケアを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●ご本人より、「〇〇へ行きたい」との希望があれば、行ける時は、その日に職員と一緒に出かけられるよう支援されている。希望を表すことが難しい方については、本や新聞記事等、ずっと見ておられるページがあれば、その場所へ出かけてみる等されている。近くにバイパス道路が開通した際には、いち早くドライブをされた。日常的には、近くのスーパーにおやつや雑誌を買いに行かれたり、図書館に本を借りに行かれることもある。介護度が重度の方で、遠出の難しい方は、庭に出て外気にふれる機会を作っておられる。

●お天気の悪くない日は毎日のように、歩行できる利用者と職員で地域のスーパー等に食材の買出しに出かけられている。買い物しながら、メニューを決めることもある。週に4日は、調理担当の職員が昼・夕食を作っておられる。調査訪問時、ご家族からいただいた新じゃがを使った煮物や山菜の天ぷら、利用者が皮を剥がれたタケノコ等が食卓に上がっていた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム・シオンの家

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

渡部 香保里

評価完了日

平成24年 6月 4日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 平成23年4月に管理者の交替があったが、新管理者は開設当初より勤務しておりホームの理念を充分理解、実践している。新規採用職員もおり、今後さらに経営者・管理者・全職員で同じ方向を向いて取り組み、ケアの質向上を目指していく。</p> <p>(外部評価) 事業所では、開設以来「やさしい目・やさしい手・主役はお年寄り」と理念を掲げておられ、利用者の行動等を、「とめないケア」の実践に取り組まれている。代表者は、職員の採用面接時より、事業所の成り立ちや理念について説明され、新人研修時にも、法人の理念である、「自由と尊厳」と合わせ、代表者の思いを伝えておられる。前回の外部評価を受け、理念をより職員に浸透させて、ケアに反映できるよう、朝の申し送り時に理念を唱和されている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的とは云えないが町内会の会合場所としてホームの多目的室を使用してもらっている。高校の文化祭のバザーや、近所の幼稚園、保育所の行事にも声をかけてもらいできるだけ参加して地元の方々との交流に努めている。自治会にも加入し行事に参加している。</p> <p>(外部評価) 事業所の所在する地区は、高齢化や人口減少が進んでおり、ご近所と交流し、関係作りをすることが難しい現状にあるようだが、近くに保育園があり、散歩の途中で園児が立ち寄ってくれて、歌を歌って聞かせてくれることがある。又、年2回、地区清掃の日には、参加できる利用者と職員が地域の方達と活動されている。秋祭りの際には、事業所に神輿が来てくれ、利用者は、健康等を祈念して神輿の下をくぐらせてもらった。系列グループホームで紙芝居や踊り、三味線等を披露して下さるボランティアの訪問がある時には、利用者も出かけて行き、一緒に楽しんでいる。</p>	事業所は、老朽化しているため、街中にある系列グループホームのある地区に新しいホームを建築中であり、8月には引っ越しの予定となっている。今後は、利用者が新しい地区の環境に馴染んでいけるよう「地域とのかかわりを密にしていきたい」と、考えておられる。利用者が地域のいろいろな方とふれあいながら暮らせるよう、移転先でも利用者にとって居心地のよい地域環境作りに取り組んでいかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 法人全体で、講師を依頼し関係者や地域の方々を対象にした「看取り」に関する講演会の開催や、職場体験実習生の受け入れを行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) ホームの近況や利用者・職員の異動等の報告や運営推進会議委員にも敬老会や救急法講習等へ参加して頂き、取組み状況を見て頂いている。今後、もっといろいろな立場の方に働きかけて出された意見をサービス向上に活かしていく。</p> <p>(外部評価) 会議は、法人のグループホームと合同で行っておられ、民生委員や介護相談員等にも参加していただいている。会議は、「バーベキュー大会」や外部講師を招いての「看取りについての講演会」等、行事と合わせて行うことで、多くのご家族や地域の方に参加いただけるよう取り組まれている。代表者は、町内の他グループホームに、見学に行かれたことをきっかけに、今後は、「相互に会議に参加し合い、事業所のサービス向上に活かしていきたい」と考えておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 町が主催する地域ケア会議にできるだけ出席し、勉強させてもらったり情報の共有を図っている。福祉課や包括から運営推進会議には必ず出席して頂いており協力が得られている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、町の担当者と地域包括支援センターの職員に参加していただいている。町の担当者には、「町内の介護保険事業の報告」や「高齢者の現状」等について、話していただいたこともある。介護相談員と利用者は顔なじみとなっており、利用者は月2の訪問を楽しみにされているようだ。成年後見制度を利用されている方もおられ、月1度は後見人の方の訪問がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は人権侵害にあたることを職員は認識している。身体や言葉の拘束だけでなく、主治医と相談しながら薬での拘束にも気をつけて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所は、「身体拘束0」を目指して取り組んでおられ、転倒等、「避けることのできない事故が起こり得る」ことについて、ご家族に説明し同意を得るようにされている。調査訪問時、玄関は網戸にして開けておられ、居間や庭に面した居室からは、庭にも出られるようになっていた。もしもの時のために、近くのガソリンスタンドの方には、高齢者が一人で歩いていたら事業所に声をかけていただけるよう、お願いをされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 代表者・管理者共に虐待についてははっきりした考え、方針を持っており、身体的・精神的すべての虐待を生じさせないように職員のストレス解消を含め、継続的に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見制度を利用している方が1名おられる。権利擁護について職員が共に学び、活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には当ホームのケアに関する考え方や取り組みをはじめ、GH協会から出ている「利用者の権利・倫理綱領」等を契約書と一緒に渡して不安のないよう十分に理解・納得をして頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員が月に2回来訪しており、利用者が外部の人に思いを話せる機会となっている。利用者や家族が、いつでも要望・不満・苦情を表すことができるよう管理者や職員は柔軟な姿勢を持つようにして、当人のその時々のおもいや希望などを大切に、運営に反映させるように取り組んでいる。 (外部評価) ご家族には、毎月ご本人の暮らしぶり等を書いた手紙を送付されている。又、季節毎には、外出の様子や日頃の表情がわかる写真を載せた、「シオンだより」を同封されている。お花見やバーベキュー等の行事の際には、ご家族に案内状を送ったり、電話で案内されており、バーベキュー時には、3名のご家族と楽しまれた。事業所では、ご家族に、「何でも言ってください」と、伝えておられるが、運営に関する意見をいただくことは少ないようである。	行事に参加して下さるご家族が少なめで、固定してきているため、管理者は、「多くのご家族に参加していただきたい」と考えておられる。ご家族に、日時の希望をお聞きしたり、ご案内を早めに出す等して、ご家族の都合が付きやすいような工夫をされてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) 毎月のカンファレンスや個人的な意見や提案も検討され、ホーム運営に反映されるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所では、職員が、「利用者体験」をする研修が行われており、職員は、介護度が重度の利用者と同じような一日を過ごす体験をされた。職員は、「一声かけてほしい」「痛くないようにしてほしい」等、利用者の立場に立ち、気付いたことをケアに活かしておられる。又、日常的にも職員から気付きや提案等が出されており、代表者と管理者、職員が一丸となって取り組みをすすめておられる。町の夏祭りでは、「より多くの地域の方に事業所を知っていただき、楽しんでいただきたい」という気持ちを込めて、職員はもちろんのこと、法人代表者も仮装して、踊りに参加されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 職員アンケートをおこない、左記の事項が実践できるように取り組んでいる。又資格取得を奨励し取得後は資格手当等を含め、向上心を持って働けるよう努めている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 新人研修をはじめすべての職員が、段階に応じた研修(中予ブロック研修)をしてもらっている。常勤・非常勤問わず研修を受けるためのバックアップや自主的に勉強しやすい環境作りに取り組んでいる。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) 同業者間で職員研修をさせてもらったり、講師をしてもらったりネットワーク作りや質の向上に取り組んでいる。町内のホームにも働きかけてはいるが、交流まで至っていない。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 本人の状況、不安、要望を把握し安心して暮らせるように支援している。また、しばらく慣れるまでは、代表が泊まったり、家族に泊まってもらうなど信頼の構築に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や本人の状況など、じっくり話を聴き当ホームではどんな対応ができるのか双方の理解と納得が得られるまで、家族の心情を理解しつつ話し合いをするように努めている。出来る限り柔軟な対応をさせていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や本人が必要としているものを色々な角度から判断して、適切な支援が受けられるよう、その人に合った必要なサービスを提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に時を過ごす家族のような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) それぞれに置かれた家族の思いに寄り添い共感しながら、家族と共に支える介護を目指し取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望に合わせて墓参り、自宅の訪問、地元の敬老会に参加等、1人1人の能力に合わせて馴染みの場所や人との関係がとぎれないように支援している。	
			(外部評価) 「お墓参りに行きたい」という利用者の希望があり、場所がはっきりわからなかったが、ご本人の記憶から職員が場所を探し当て、お参りをされたこともある。長年の友人が系列グループホームに入居されたことを知り、会ってお話する機会が作れるよう、職員は利用者と一緒に時々たずねて行かれている。又、以前から利用されている美容室や理容室へ、職員と一緒に定期的に行かれ、散髪や毛染め等をされている。ご自宅に戻って数日間過ごされたり、ご家族の法事に出席される等、ご家族の協力もいただきながら馴染みの関係が継続できるよう支援されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係を把握し、より良い関わりがもてるよう見守りや声かけを行っている。孤立しがちな方、不仲な方等は職員がうまく交われる場を設定したりしながら利用者同士の関係作りの支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 亡くなったり、長期入院になったりして退所になられても関係を断ち切らないように、必要に応じて相談や支援を行ってきた。毎年花を届けてくれたり、訪問してくれる御家族がいる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中で職員が、一人一人の思いの把握に努めている。本人の意向を第一にして、自分で決めることができるような声かけをするよう取り組んでいる。意思疎通の困難な方は家族の希望や本人の表情・様子などから把握し、希望に添えるよう努めている。 (外部評価) 入居時、代表者と管理者が、ご本人やご家族から「生活歴」「障害を持つてからの気持ち」「入居についてどう考えているか」等について聞き取り、「入居者情報」としてまとめておられる。又、センター方式の、「私の暮らし方シート」や「私の姿と気持ちシート」を用いて個々の思いや意向の把握に取り組まれている。アセスメントは、6ヶ月に1度、新しい用紙を使って更新されており、継続的なアセスメントに取り組んでおられる。職員は、日常の利用者との会話や表情からくみ取った思いや希望等を書き留め、利用者個々の担当職員に情報が集まる仕組みを作っておられる。担当職員が中心となり、「本人が希望していること」等、皆からの情報をまとめ、「解決・実現するために」どのような支援を行うかということすべての職員で検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅での生活歴を本人や家族等への聞き取りで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録に一人一人の状態(食事、水分、排泄)や会話等、生活状態がわかるように記録している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	本人、ご家族の意向を伺いながら利用者個々の担当者が立案し職員全員で話し合いケアプランを作成している。状況変化があればその都度見直しを行っている。モニタリングにより、一人一人を把握し見直しを行っている。	
			(外部評価)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	ケース記録にケアの実践状況や日々の様子を記録し、気付いたことも記録するようにしている。職員同士も情報を共有しながら、実践や、介護計画の見直しに生かしている。	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	法人内のデイサービスや多機能ホームでのイベントへの参加等、必要に応じ本人、家族の状況や要望を軸に柔軟な対応に取り組んでいる。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	近くのスーパーへの買い物、行きつけの美容院の利用、保育園児との交流等できるだけ豊かな暮らしができるよう支援している。社協のボランティア制度も利用している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) それぞれの掛かり付け医に定期的に月1回往診してもらっている。又、随時の受診の支援や24時間態勢で診療して頂ける医院との連携もできている。町外の医療機関への受診も基本的には職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 職員が利用者の受診時に同行されているが、ご家族に医師からの説明を直接聞いていただく必要がある時等は、ご家族にも同行していただいている。24時間対応が難しいかかりつけ医で診てもらっている利用者は、ご本人の重度化等の状態に応じて、ご家族からの申し出で対応が可能な協力医療機関に変更されたり、事業所から説明して変更される場合もある。歯科受診が必要な場合は、職員が協力医療機関である歯科医院に同行されている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 普段は職場内の看護・介護職員共同で一人一人の体調管理や病状把握に努めており、看護職が不在の時に医療が必要な場合は訪問看護を利用している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 本人・家族が安心して入院生活を送れるよう支援している。又、早期退院に向けて医療機関と話し合い、情報交換を行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時、及び必要時にターミナルケアに関する指針を文書や口頭で説明し理解を得ると共にその都度話し合いを持ち、柔軟に対応、支援している。医療との連携による数名の看取り経験があり、いずれも自然死を望む御家族からとても感謝されている。</p> <p>(外部評価) 入居時に、重度化や看取り支援について事業所で作成している、「重度化対応・終末期ケア対応指針」をご家族に示し、「グループホームで死が迎えられるように最大限の対応をする」ことを説明されている。ほとんどのご家族が、「最期までここで」と、希望されており、開設以来、看取りや終末間近まで事業所で支援された利用者は少なくない。最期までの数日は、ご家族に泊まっていただく等して、ご本人の最期の時間を一緒に過ごしていただけるよう、働きかけを行っておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、カンファレンス等で周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、救命救急講習会を毎年1回行っている。回を追うごとに実践力が身に付いているように思うが、いざと言うときに備え安全安心に向けた取り組みを一層強化していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年1回消防署の指導の下、避難訓練、消火訓練を実施している。自治会にはホームの見取り図と利用者の身体状況を情報提供し、いざというとき駆けつけてもらえるようお願いしている。自治会の有志の皆さんが避難経路や間取りの下見をして下さっている。自動通報装置と火災報知器を行政の補助で設置している。	
			(外部評価) 年2回、火災を想定した避難訓練を実施されている。12月に、消防署の協力で行った訓練は、昼間台所からの出火を想定して行われ、歩行できる利用者は参加し、歩行が難しい利用者は、職員が利用者役になり、避難する訓練に取り組みされた。民生委員にも協力していただき、利用者の避難誘導と避難後の見守りをいただいた。消防署より、「漏電等が火災の原因にもなる」というアドバイスをいただき、事業所ではたこ足配線にならないよう、差込口の多いコンセントに取り替えたり、ほこり等が付いていないか点検された。以前より、地域の役員や有志の方等、いざという時の協力者に事業所内の見取り図を渡す等されていたが、前回の外部評価を受け、協力者の方々に避難経路や避難場所を確認していただいたり、利用者の状態を知っていただくために、事業所を見学していただいた。事業所では、チェックリストを作成して、スポーツ飲料やレトルト食品、缶詰等の食品の備蓄や懐中電灯等の備品等を用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 法人の理念である「自由と尊厳」を接遇態度において実施した言葉かけや対応に努めている。新人職員にはまだ理念が十分に浸透していない部分があるので、今後も職員教育に力を入れて取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 代表者は、ご本人が「恥ずかしい思いをすることがないように」「トイレの声かけ等は、他の人に聞かれないように」「失敗された時はさりげない対応をするように」、又、言葉遣いについても、「方言が悪いわけではないが、ぞんざいに聞こえるような方言は使わない」ことを、よく職員に話しておられる。トイレの棚に置いておられるパッド等の排泄用品は、和紙を貼った個別の入れ物に用意されており、中が見えないように工夫されていた。運営推進会議時には、参加者に利用者の顔写真入りの事業所便りを見ていただいているが、会議後は回収されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人の持てる力に合わせて、買い物時の選択、おやつ時の飲み物の選択等、日常生活の中で自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人の体調、ペースに合わせた生活を優先したケアに努めているが、重度化に伴い本人の希望に添えない状況も出てきている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 1人1人の好みを優先し行きつけの理・美容院へお連れしたりその人らしいおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備やあとかたづけはその時々の利用者さんの状態に合わせて臨機応変に対応している。一緒の買い物時に希望をきいたり、食事が楽しめるよう努めているが重度化により行えない方が増えてきている。 (外部評価) お天気の悪くない日は、毎日のように、歩行できる利用者と職員で地域のスーパー等に食材の買出しに出かけられている。買い物しながら、メニューを決めることもある。週に4日は、調理担当の職員が昼・夕食を作っておられる。調査訪問時、ご家族からいただいた新じゃがを使った煮物や山菜の天ぷら、利用者が皮を剥がれたタケノコ等が食卓に上がっていた。利用者の介護度が重度化してきており、できることが少なくなってきたようだが、野菜の皮むき、お盆や職員が洗った食器拭き等、「座ってできること」は、行えるよう支援されている。食後、エプロンと三角巾を着け、お盆拭きをされる利用者の様子がうかがえた。又、急須がテーブルに置いてあり、ご自分で注いでいる方もみられた。誕生日は、ご本人のお好きなメニューでお祝いされており、利用者にとって懐かしい「いりご飯」やバラ寿司、赤飯や煮物等の希望が多いようだ。近くの食堂にうどんを食べにいかれたり、おやつにケーキを食べに喫茶店に出かけることもある。飲み込みが難しい状態の方には、おかずは刻んだり、寒天等でゼリーにして、なるべくロミ剤を使わず、おかずその物の味を壊さず、おいしく食べられるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量を把握し、1人1人の状態や習慣に応じた支援ができるよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声かけを行い、自分で行えない利用者さんは職員が手伝いチェック表に記入し確認している。入れ歯の不具合でいやがる方もあるが、御家族や歯科医と相談しながら対処している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、利用者のサインを見逃さないよう努めている。随時トイレ誘導し、経済的負担も減らせるよう工夫しているが、重度化により年々困難になってきている。</p> <p>(外部評価) 夜間、紙パンツを使用される方も、昼間は布パンツにパッドを使用して、利用者個々の排泄パターンに応じて、声かけやトイレ誘導をされている。布パンツのみで、入居時から自立されている方もおられる。便がゆるい時やご本人が排泄に対する不安を訴えられる時等は、一時的に紙パンツを使用させていただくようにして、無理をしないことで、現状が維持できるように支援されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 飲食物や運動で薬物に頼らず排便を促したり、水分補給等いろいろ工夫し、自然排便に向けて取り組んでいるが、無理な場合はかかりつけ医と相談しながら下剤の調整を行うなど、支援に努めている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 1人1人の体調に合わせて入浴している。曜日や回数も特に決まりはなく、快く楽しめる入浴を心がけている。</p> <p>(外部評価) 基本的に午後からを入浴時間とされている。お風呂のお好きな方は、毎日入浴される方もある。入浴を好まれない方は、声かけ等を工夫して週に2回は入っていただけるよう支援されている。民家改修型の事業所で、浴室の入り口には段差があったり、広さにも限りがあるが、職員が2人対応で介助を行い、介護度が重度の利用者にも、浴槽で温まっていたりよう支援されている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 個々の体調や希望に合わせて安心して休めるように支援している。リビングで職員と一緒にテレビを見たりお茶を飲んだりして眠くなったら居室に戻る方がいたり、自由にしてもらっている。冬場は湯たんぽを使用し、安眠につなげている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬説明書を個別に管理し、全職員がいつでも確認できるようにしている。飲み忘れや誤配がないように声に出して服薬確認し、又症状の変化にすぐ気付けるよう観察を怠らないよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人のできることを依頼したり、ゲームやカラオケ、買い物、ドライブ、外食等楽しみごとや気分転換の支援に努めている。また、四季折々に花の見学に出かけたり、家に帰るなど気晴らしの支援を行っている。月に2回、週刊誌を買いに行くのを楽しみにしている方もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望で高知やしまなみにドライブにいっている。観劇、墓参り、寺参り等行きたいところに出かけられるよう支援している。 (外部評価) ご本人より、「○○へ行きたい」との希望があれば、行ける時は、その日に職員と一緒に出かけられるよう支援されている。希望を表すことが難しい方については、本や新聞記事等、ずっと見ておられるページがあれば、その場所へ出かけてみる等されている。しまなみ海道や高知までドライブ等、遠出されることもある。調査訪問時、利用者が、「しまなみはよかった。また行ってみたいねえ」と、話してくださった。近くにバイパス道路が開通した際には、いち早くドライブをされた。日常的には、近くのスーパーにおやつや雑誌を買いに行かれたり、図書館に本を借りに行かれることもある。介護度が重度の方で、遠出の難しい方は庭に出て、外気にふれる機会を作っておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で支払いできる方はして頂き、個々の状況に応じて、支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 当然のこととして対応しているが、現在それができる方は1名のみになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家庭的な雰囲気作りに努めている。リビングの外庭に季節の花を植え縁側で日光浴をしたり、庭でおやつを楽しんだりしている。浴室が狭く段差があり入りにくい、8月には移転が決まっている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、民家改修型で、居間からは台所が見え、調査訪問時には、おかしができるにおいがしていた。居間には掘りごたつがあり、一人掛けのソファや2~3人が座れるソファが複数あり、利用者はお気に入りの場所で過ごされている。座布団に正座して座っておられる方もあった。昼食後は、本や新聞を読まれたり、職員と一緒に歌を歌っている利用者の様子がみられた。職員と一緒に散髪から帰ってきた利用者、職員や他の利用者は「男前になった」「短くなったね」等と声をかけられ、和やかな雰囲気であった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室で1人で過ごされたり、リビングで話したりテレビを見たりそれぞれ自由に過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者さんの部屋は、利用者さんの状態に応じ洋室、和室を利用できるようにしている。ダンス、テレビ、小物など本人の使い慣れたものを持ち込んでもらうようにしている。家族写真や日記、位牌を持ってきている方も安心して過ごせる場所になっている。</p> <p>(外部評価) 使い慣れた筆筒や戸棚を持ち込まれている方もおられる。おしゃれすることが好きな方の戸棚には、化粧品やアクセサリ等が並べてあった。ベッドや寝具は、利用者の状態に合わせて事業所で用意されており、身長が低めの利用者には、低めのベッドを使用されていた。又、自力で寝返りができず、体位交換の必要な方は、夜間、職員が一人で対応してもご本人への負担が少ないように、畳に広めの敷布団を敷くようにされていた。居室から庭に出られる部屋もあり、歩行できる方は自由に庭に出て縁側に座って景色を眺められたり、庭を散歩する等されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下やトイレに手すりを付け、自分の力で立位するようになっている。玄関は座って靴が履けるようになっており、自分のできることやわかることは極力見守りで支援しよう努めている。</p>	